

COMPARISON OF MOTIVATION, LEARNING BEHAVIORS, AND REASONS
FOR JAPANESE LEARNERS IN THAI-NICHI INSTITUTE OF TECHNOLOGY

Taishi Kanemaru

TNI

A Term Paper Submitted in Partial Fulfillment of the Requirements
for the Degree of Master of Business Administration Program

in Japanese Business Administration

Graduate School

Thai-Nichi Institute of Technology

Academic Year 2020

泰日工業大学における日本語学習者の
学習理由、学習行動および学習意欲の比較

金丸 大志

TNI

泰日工業大学大学院
経営学部日本語経営コース
修士論文

Term Paper Topic Comparison of Motivation, Learning Behaviors, and
Reasons for Japanese Learners in Thai-Nichi Institute of
Technology
By Taishi Kanemaru
Field of Study Japanese Business Administration
Term Paper Advisor Dr. Boonyada Nasomboon

The Graduates School of Thai-Nichi Institute of technology has been approved and
accepted as partial fulfillment of the requirement for the Master's Degree.

.....Dean of the Graduate School

(Assoc. Prof. Dr. Pichit Sukcharoenpong)

Month..... Date..... Year.....

Term Paper committee

.....Chairperson

(Asst. Prof. Dr. Surasit Udomthanavong)

.....Committee

(Dr.Oeb Pongbungor)

.....Advisor

(Dr.Boonyada Nasomboon)

TAISHI KANEMARU : COMPARISON OF MOTIVATION, LEARNING BEHAVIORS, AND REASONS FOR JAPANESE LEARNERS IN THAI-NICHI INSTITUTE OF TECHNOLOGY. ADVISOR : DR. BOONYADA NASOMBOON, 50 PP.

The purpose of this study is to investigate the differences among undergraduates in four categories. The faculties are Business Administration, Engineering and Information Technology. The four categories are Category-A) Japanese language classes, B) reasons for studying, C) learning behaviors, and D) factors that influence motivation to study.

Quantitative methods were used to collect and analyze the data. The data were collected 195 students who study as Business Japanese at Thai-Nichi Institute of Technology. The response data from the questionnaire was collected and analyzed.

According to the result of the research, the categories with the highest scores were as follows. Category-A) The current class is beneficial. B) want to travel to Japan. C) study Japanese by watching animations, movies, dramas, programs, etc. in Japanese. D) be more motivated to learn when the teacher is kind.

As for the results of the differences among the faculties; Category-A) There was no difference among the faculties. B) There was a difference in three items. C) There was a difference in one item. D) There was no difference among the faculties.

The last proposal was to establish courses based on the survey results. And suggest setting up Japanese classes according to students' abilities, etc.

Graduate School

Student's Signature.....

Field of Study Japanese Business Administration

Advisor's Signature.....

Academic Year 2020

金丸大志：泰日工業大学における日本語学習者の学習理由、学習行動および学習意欲の比較。指導教官：Dr. BOONYADA NASOMBOON, 50 PP.

本研究では、カテゴリーA) 日本語の授業、B) 学習理由、C) 学習行動、D) 学習意欲を上下させる要因について、学部ごとの学生の違いを調査することを目的としている。

データの収集と分析には定量的手法を用いた。タイ日工業大学で日本語を学ぶ工学部、情報学部、経営学部の3年生と4年生 195名の学生に対し、質問紙によって、データを収集し、分析した。

調査結果によると、最も高得点の項目を順に書くと次のとおりである。A) 日本語の授業については、「今の授業はためになる」であった。B) 学習理由については、「日本を旅行したいから」であった。C) 学習行動については、「日本語でアニメや映画、ドラマ、番組等を見ている」であった。D) 学習意欲を上下させる要因については、「先生が親切なとき」に学習意欲が高くなるであった。

各学部の違いについての結果は、A)「日本語の授業について」では各学部に差異は見られなかった。B)「日本語学習理由」では、3項目に差異が見られた。C)「日本語学習行動」では、1項目に差異が見られた。D)「学習意欲を上下させる要因」では各学部に差異は見られなかった。

最後の提案では、調査結果を踏まえた科目の設置や、教える内容を細分化し、科目を設置するのではなく、学生の能力別に日本語クラスを設定すること等を提案している。

大学院

学生.....

経営学部日本語経営コース

指導教官.....

2020年度

謝辞

当研究の実施におき、長らくご指導ご助言をくださいました Boonyada 先生並びに、経営学部 Rungsun 助教授、Boonchoo 先生、教養学部 Wanwimon 助教授のご尽力いただき厚く御礼申し上げます。

本研究を進めるにあたってご指導ご鞭撻をいただきました Boonyada 先生に心より感謝いたします。また、本研究のアドバイスを頂きました経営学部 Rungsun 助教授、Boonchoo 先生、教養学部 Wanwimon 助教授に深く感謝いたします。

また、アンケート調査にご協力してくださった工学部、情報学部、経営学部の選択科目履修の学生の皆さん、本当にありがとうございました。

さらにアンケート調査の実施にご協力頂いた教養学部の先生方、タイ語の監修や翻訳にご協力くださった山口先生、Pornrat 先生に心より御礼申し上げます。

そして、本論文の執筆にあたり、数多くのサポートをしてくださいました教養学部の先生方、いろいろとご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。ここでお詫びと感謝の気持ちに代えさせていただきたいと思います。

最後に多くの方々のご助力のもと、本論文を執筆し纏めることができました。誠にありがとうございました。

金丸 大志

TNI

THAI - NICHI INSTITUTE OF TECHNOLOGY

目次

	頁
要旨.....	iv
要旨.....	v
謝辞.....	vi
目次.....	vii
表.....	ix
図.....	x
章	
1 はじめに.....	1
1.1 研究の背景.....	1
1.2 本研究の目的.....	2
1.3 仮説.....	2
1.4 研究の領域.....	3
1.5 研究の枠組み.....	4
1.6 寄与.....	4
1.7 仮説の定義.....	5
2 先行研究	6
2.1 学習意欲.....	6
2.2 道具的動機と統合的動機.....	7
2.3 関連する研究及び先行研究	8
3 研究方法.....	10
3.1 データ収集.....	10
3.2 分析方法.....	12
3.3 信頼性分析.....	16

目次（続）

章	頁
4 データ分析	17
4.1 調査対象者	17
4.2 日本語の授業、日本語学習理由、学習行動、学習意欲について.....	18
4.3 仮説検証.....	24
5 結論と提言	37
5.1 調査結果の分析	37
5.2 先行研究との類似点.....	39
5.3 提言.....	39
参考文献	42
資料	45
著者	50

表

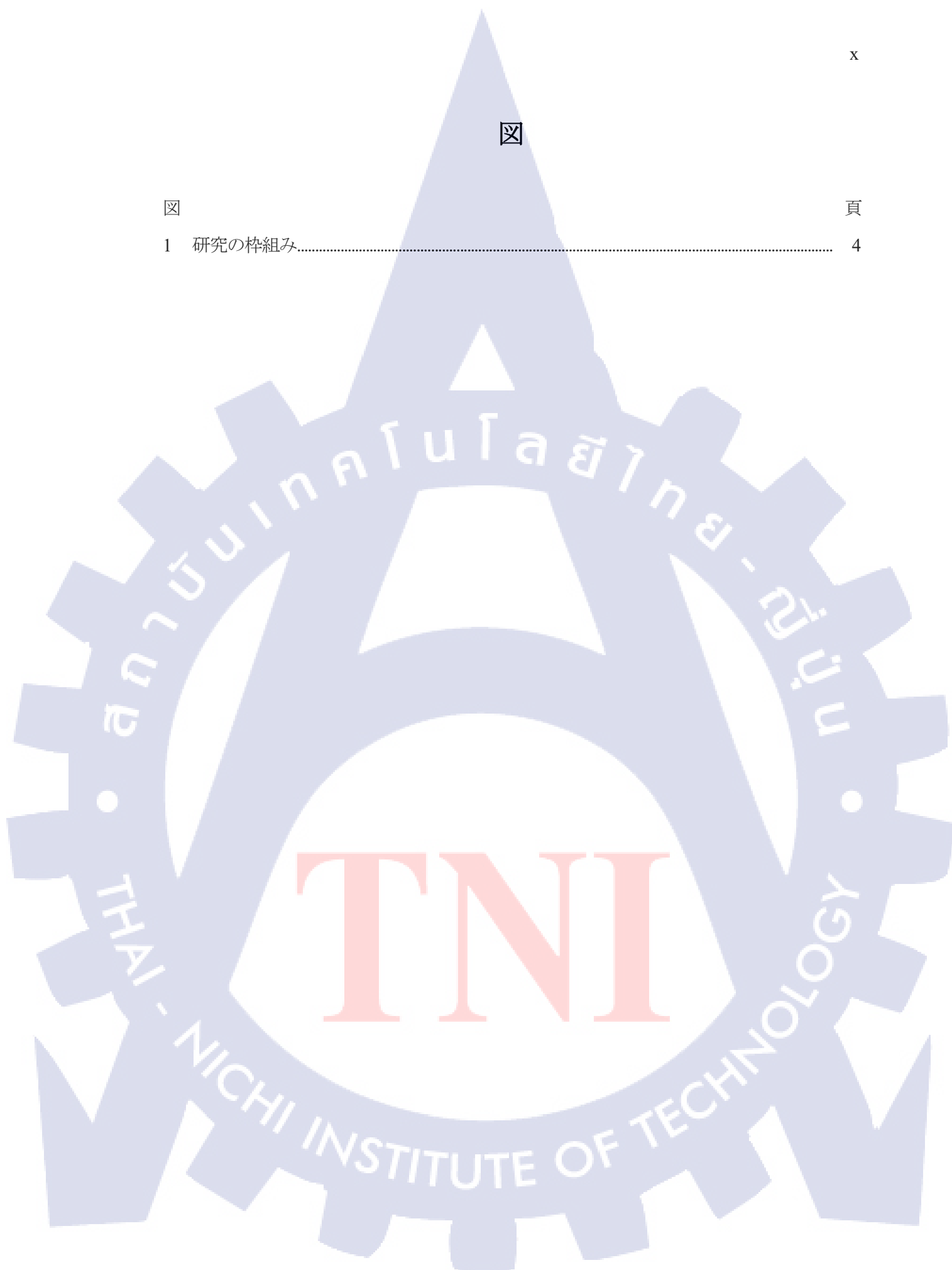
表	頁
1 調査対象者の割合	11
2 サンプル数の定義	11
3 平均値の評価基準	12
4 日本語の授業について	13
5 日本語学習理由	13
6 日本語学習行動	14
7 日本語学習意欲を上下させる要因	15
8 信頼性分析	16
9 学部	17
10 「日本語の授業について」の結果	18
11 「日本語学習理由について」の結果	19
12 「日本語学習行動について」の結果	20
13 「日本語学習意欲を上下させる要因について」の結果	22
14 仮説 1 カテゴリーA の一元配置分散分析	24
15 仮説 2 カテゴリーB の一元配置分散分析	25
16 仮説 2 その後の多重比較の最小有意差 (カテゴリーB2)	28
17 仮説 2 項目 B2 の各学部ごとの Mean と S.D.	28
18 仮説 2 項目 B4 のその後の多重比較の最小有意差	29
19 仮説 2 項目 B4 の各学部ごとの Mean と SD	29
20 仮説 2 項目 B6 のその後の多重比較の最小有意差	29
21 仮説 2 項目 B6 の各学部ごとの Mean と SD	30
22 仮説 2 その後の多重比較の最小有意差 (カテゴリーB7)	30
23 仮説 2 項目 B7 の各学部ごとの Mean と SD	30
24 仮説 3 カテゴリーC の一元配置分散分析	31
25 仮説 3 項目 C8 のその後の多重比較の最小有意差	32
26 仮説 3 項目 C8 の各学部ごとの Mean と SD	33
27 仮説 4 カテゴリーD の一元配置分散分析	33



図

頁

1	研究の枠組み.....	4
---	-------------	---





第1章 はじめに

1.1 研究の背景

タイにおける日本語学習者は約 185,000 人（2018 年 国際交流基金）であり、そのうち、高等教育においては 20,500 人である。20,500 人のほとんどは日本語を専攻している学習者である。一方、泰日工業大学（以下 TNI）ではビジネス日本語科目(以下 JPN) のように、経営学部・工学部・情報学部に所属する学生が必修科目として日本語を 2 年半学習している。

タイの大学生の日本語学習者を対象とした学習意欲や動機づけの研究には成田(1998)、宇都木(2011)、などがある。成田(1998)は、日本語学習動機と成績との関係について調査を行っている。その結果、学習動機において「統合的志向」が強い学習者は成績が高く、「道具的志向」の強い学習者は成績が低い傾向にあることが示された。宇都木(2011)は日本語能力と動機づけの関係について調査を行った。その結果、上級学習者は初中級学習者と比べ動機づけが弱いことが明らかになった。吉川(2011)では、日本語学習意欲を高める要因と学習行動との関係を調査し、内発的動機づけの重要性を示唆している。

そのような日本語学習者に対する動機付けの研究が報告されている中、TNI における JPN101 から 301 を必修科目として学習している学生の日本語学習の意欲が低いのではないかと疑義を呈された。このため、教養学部の JPN を担当している教員を中心に JPN301 の学習者に対し、日本語学習の意欲が低いかどうかのアンケート調査を行った(2019 年 10 月)。その結果、JPN301 を学習している学生の学習意欲は三学部ともに低いとは言えない結果となった。

そのアンケートではモチベーションが低くなる要因のみを調査したため、モチベーションを高める要因を調査していなかった。そこで今回、JPN301 の後の選択科目として履修した学生に、あらためて日本語学習に対しどのように考えているか、日本語の学習動機や学習行動、モチベーションを高める要因および下げる要因を調べ、TNI における JPN コースで日本語を学ぶ学習者の学習理由や学習行動、学習意欲に学部ごとの特徴がないかを調査する。

1.2 本研究の目的

1. TNI の JPN において、必修科目終了後に日本語選択科目を履修した学生の日本語習得に対する学習理由、学習行動や学習意欲を知る。
2. 上記の内容を分析し、その結果から学部ごとの日本語学習に対する違いを明らかにする。
3. 今後の JPN 日本語選択科目の授業内容を改善する。

1.3 本研究の仮説

日本語習得における学習理由、学習行動や学習意欲を上下させる要因などを調査対象の属性によって、調査内容の傾向に差異があるのか仮説を立てた。調査対象の属性である「学部」によって、日本語の学習理由や学習行動、学習意欲などにどのような違いがあるのか分析を行った。

仮説1 「日本語の授業」について、各学部の学生の間に差異は見られない。

仮説2 「日本語学習理由」について、各学部の学生の間に差異は見られない。

仮説3 「日本語学習行動」について、各学部の学生の間に差異は見られない。

仮説4 「日本語学習意欲を上下させる要因」について、各学部の学生の間に差異は見られない。

TNI

THAI - NICHI INSTITUTE OF TECHNOLOGY

1.4 研究の領域

本研究での調査対象者は TNI の JPN に所属する 3 年生と 4 年生の学生で、JPN の日本語選択科目を受講した学生である。

1.4.1 調査対象の母集団と回答者について

母集団の各学部の内訳

経営学部 (BA)	86 名
工学部 (E)	47 名
情報学部 (IT)	62 名
合計	195 名 (2019 年 3 月現在)

回答者の各学年の内訳

経営学部	70 名
工学部	36 名
情報学部	62 名
合計	168 名

1.4.2 変数について

本研究の仮説検証では三つの属性（経営学部・工学部・情報学部）に所属する学生に、日本語の授業、日本語の学習理由や学習行動、学習意欲に差異が見られるのか分析を行った。それにあたり以下の変数を用いた。

独立変数

学部：経営学部、工学部、情報学部

従属変数

日本語学習についての質問は大きく 4 つのカテゴリーに分けた。カテゴリーは次の 4 つである。

1. 日本語の授業について
2. 日本語学習理由について
3. 日本語学習行動について
4. 日本語学習意欲を上下させる要因について

1.4.3 研究期間

本論文の作成にあたった研究期間は 2020 年 3 月から 2021 年 1 月末である。

1.5 研究の枠組み

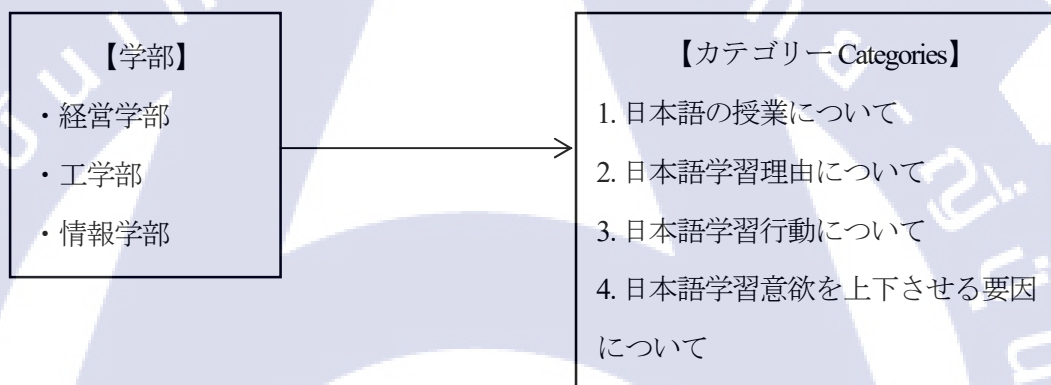


図1 研究の枠組み

1.6 寄与

1. TNI の JPN において、必修科目終了後に日本語選択科目を履修した学生の日本語習得に対する学習理由、学習行動や学習意欲を知ることができる。
2. 上記の内容を分析し、その結果から学部ごとの日本語学習に対する違いを明らかにすることができる。
3. 今後の JPN 日本語選択科目の授業内容を改善することができる。

1.7 仮説の定義

1.7.1 仮説 1

「日本語の授業」について、各学部の学生の間には差異は見られない。

今の日本語の授業が楽しい、将来のためになるか等、日本語学習にどの程度肯定的であるのかといったような質問に対し、各学部の学生の間には差異は見られないという仮説である。

1.7.2 仮説 2

「日本語学習理由」について、各学部の学生の間には差異は見られない。

将来日本で就職したいから、日本を旅行したいから等、どうして日本語を勉強しているのかといったような質問に対し、各学部の学生の間には差異は見られないという仮説である。

1.7.3 仮説 3

「日本語学習行動」について、各学部の学生の間には差異は見られない。

日本語でマンガや小説等を読んでいる、自分で JLPT などの検定対策の勉強をしている等、日本語学習について授業以外にどんな方法で勉強しているのかといったような質問に対し、各学部の学生の間には差異は見られないという仮説である。

1.7.4 仮説 4

「日本語学習意欲を上下させる要因」について、各学部の学生間には差異は見られない。

先生に出された課題をしているとき、先生にほめられたとき等、どんな時に日本語を勉強したり、したくないと思うようになったかといったような質問に対し、各学部の学生の間には差異は見られないという仮説である。

第2章 先行研究

この章では、日本語の学習理由や学習行動、学習意欲に関する先行研究について、定義、関連する研究及び先行研究、参考文献をまとめる。

2.1 学習意欲

学習意欲とは英語の「**motivation**」から日本語訳されたものである。その他の訳として、学習動機、動機づけなどがある。学習意欲の定義については研究者によってとらえ方が異なり、用語の使用におけるあいまいさが複数の研究者によって指摘されている。こういったなか、岡（2017）等以下のように学習意欲、動機が定義されている。

学習動機は「なぜ人がそれを行うのか」、「どの程度その活動を維持しようとするのか」、「いかにそれを達成しようとするのか」という三つの面を含んでいる。ドルニエイ・ゾルタン（2005）

学習動機は学習行動を喚起する心理学エネルギー、行動を促すもの。王（2016）

心理学では「やる気」や「学習意欲」について一般的に動機づけと呼び、行動を方向づける基本的な欲求であると述べられている。さらに「動機づけ」を「目標達成のための推進力」であり、「ある目標を達成するために行動を起こし、それを持続し、目標達成へ導く内的な力」としている。山本（2015）

磯田（2008）は、「学習意欲」とは「学習者と授業との相互作用として起こる動的な現象」と位置付けている。

日常生活で日本語学習の必要性がないタイにおいて、日本語教育は「外国語としての日本語」であり、教室内での学習意欲を高めることが重要であるという観点から、吉川（2011）は学校生活や授業を通しての「学習意欲」に焦点をあてた授業の在り方を検証した。

岡（2017）によれば、日本語教育において心理学の理論を用いる時は「動機づけ」が使われることが多く、教育実践に比重を置く時は「学習意欲」が使われることが多いとされている。

したがって、日本語学習における学習動機や意欲とは、日本語の学習行動を起こすきっかけとなるような内から沸き起こる力であり、また、日本語学習を続けようとする意志である。そして、その意志力は授業などの環境により変化するものであると考えられる。

2.2 「道具的動機づけ」と「統合的動機づけ」

第二言語教育における動機づけに関する研究においてガードナー（Gardner R.C）他の動機づけには「道具的動機づけ」と「統合的動機づけ」が広く知られている（Gardner & Lambert, 1972; Gardner, 1985）。

「道具的動機づけ」とは仕事に就くため、留学をするためなど何かを達成するといった目的を持って言語を学習することである。つまり、日本語能力検定といったような試験に受かりたい、よりよい仕事や待遇を得たい、社会的な地位を得たいといったような理由により、学習者が目的達成のためにその言語を学ぶという実用的な動機である。

一方、「統合的動機づけ」とは目標言語や文化に関心があり、その中に入ること、つまりその社会への統合を目的として言語を学習することである。つまり学ぶ対象の言語や文化を学び、その社会に溶け込みたい、その社会に参加したいといったような理由で学習者が目標言語を学ぶことである。

また、この動機づけの分類のほかに内発的動機づけと外発的動機づけがある。内発的動機づけは、知りたい、楽しい、おもしろいといった学習者の心から沸き起こる感情、つまり内面から出てくる動機づけのことである。そして外発的動機づけは、報酬がもらえるから、評価が上がるから、褒められるからといったような外部から来る動機づけである。

2.3 関連する研究及び先行研究

2.3.1 「日本語学習動機と成績との関係—タイの大学生の場合—」成田（1998）

成田（1998）はタイの大学生における日本語学習動機と成績との関係を研究している。この研究では日本語学習動機のアンケート調査をバンコクの日本語を専攻する大学生に行い、そこでの学習動機の因子を「文化理解の志向」「統合的志向」「道具的志向」「利益享受志向」「国際性志向」「誘発的志向」と命名した。

「文化理解の志向」とは「日本文化を理解したい」「文化的な人間に見られたい」といった考え方を中心とする学習動機である。

「統合的志向」とは「日本人と親しくなりたい」「日本人とコミュニケーションしたい」といった考え方を中心とする学習動機である。

「道具的志向」とは将来の仕事のために「日本語の文献が読めるようになりたい」「日本語で文章が書けるようになりたい」といった考え方を中心とする学習動機である。

「利益享受志向」とは「勉強しておけば、将来何かの役に立つであろう」というように目的の不明確さが見受けられる学習動機のことである。

「国際性志向」とは日本語は国際的な言語であるからこれを学ぶことで自分も国際的な人間になりたいといった考え方を中心とする学習動機である。

「誘発的志向」とは「親や友人に促されて」とか「試験でいい点を取りたいから」というように、本来日本語学習とは関係ないことに誘発された傾向が見受けられる学習動機のことである。

調査結果から、統合的志向の強い学習者の成績が高く、利益享受志向や誘発的志向の強い学習者の成績が低い傾向にあることがわかった。

2.3.2 「日本語学習行動への積極性の有無と学習意欲を高める要因に関する研究-タイの高校生の場合」吉川（2011）

吉川（2011）は、タイの高校生の日本語学習意欲を高める要因と学習行動について研究した。日本語学習意欲を高める要因質問と日本語学習行動の質問からなる質問紙をタイの高校1年生に対し実施している。

まず、日本語学習意欲を高める要因の4段階の評定平均値を求めた。次に日本語学習意欲を高める要因のうち、特定の要因が学習行動に影響を及ぼしているかどうかを調べている。その後、日本語学習意欲を高める要因の因子分析を行っている。

これらの結果、学習意欲を高める要因として、やればできるという自信や、先生が自分のことを気にかけていてくれるといった気持ち、成績が下がって頑張らなければという気持ち、将来就きたい職業の目標等と結びついたときにやる気になると評価している。逆に授業がつまらないときは頑張ろうと思わないと評価していることが明らかになった。

学習意欲を高める要因には、「関係性・有能感・日本を体感すること」と「日本語学習内容」の二つの因子が見られた。内発的動機の構成要素である「関係性」「有能感」が含

まれていることから、タイの中等教育における日本語学習には内発的動機づけが重要な要因であることが示された。

2.3.3 「タイ中等教育における日本語学習動機、学習意欲を高める要因—日本語学習行動増加群と減少群の比較—」 吉川（2013）

吉川（2013）はタイの中等教育における日本語学習動機と学習意欲を高める要因についての研究をおこなった。学習行動について高校生の1年次のはじめと終わりに調査を行い、行動が増加した群と減少した群その結果を比較している。その中で日本語学習動機および日本語学習意欲を高める要因の違いを研究している。

学習行動を点数化し、点数が増減によって学生を増加群、減少群の2つに分けて分析を行っている。差異の出た項目について、増加した項目は「授業時間以外でも先生に日本語や日本文化について質問をする」「わからない単語や文があったとき、教科書や辞書で調べる」といった自発的学習行動に増加傾向が見られた。一方、「日本語の授業に出席している」「宿題が出たら期限を守る」という義務的な行動については減少傾向が見られた。これについては授業に対する慣れが関係しているのではないかと述べられている。

次に学習動機を高める要因の調査について、各項目の結果については全てにおいて学習行動の増加群のほうが減少群よりも高い平均値であった。その中で平均値の高かった項目は「日本語の成績が上がったとき」「日本語が上手になっていると自分で感じたとき」といった自己の成長や上達を実感したり、他者からの評価を受けたりしたときであることがわかる。

「学習行動減少群が、増加群よりも、当初の動機が高かった」という結果から、最初に持っている学習動機より、日々の授業を通して学習動機を喚起することの方が重要であり、その学習意欲を維持させることで実際の学習行動につながると考えられると示されてい

第3章 研究方法

この章ではアンケート調査を行うにあたり、アンケート調査の対象者の情報や調査の仕方、分析の方法、データの統計についてまとめる。

アンケートの質問項目については、吉川（2013）などを参考に 38 項目を作成した。アンケートのカテゴリーは「日本語の授業について」「日本語学習理由について」「日本語学習行動について」「日本語学習意欲を上下させる要因について」の4つである。

これらの質問項目をまず日本語で作成し、次に日本人日本語教師にチェックしてもらった。その後、質問の内容がタイ語に反映されるようタイ人日本語教師にタイ語へ翻訳してもらった。

3.1 データ収集

アンケート調査はアンケート用紙を使い、実施した。調査期間は 2020 年 3 月 2 日から 13 日にかけて行った。具体的な数値は以下にまとめる。

3.1.1 母集団

TNI の JPN 選択科目には JPN-302 ビジネス日本語 6、JPN-403 エンジニアのための日本語、JPN-415 読み書きのための日本語、JPN-417 会話のための日本語といったコースがある。これらのコースに在籍した学生

3.1.2 サンプル数

JPN 選択科目受講学生 195 名に調査を行い、得られた回答数は 168 名であった。回収率は 86.1%となった。詳細は次の表のとおりである。

表1 調査対象者の割合

学部	在籍者数	調査協力者	割合
経営学部	86名	70名	81.4%
工学部	47名	36名	76.6%
情報学部	62名	62名	100%
合計	195名	168名	86.2%

以下の Krejcie&Morgan(1970)の計算式で推奨されている数値は母集団 190 名に対しサンプル数は 127 名、母集団 200 名に対しサンプル数は 132 名（表 3 参照）である。本調査では 195 名に対し 168 名のサンプル数となり、推奨される値を上回っている。

$$s = X^2 NP(1-P) \div d^2 (N-1) + X^2 P(1-P).$$

s = required sample size.

X^2 = the table value of chi-square for 1 degree of freedom at the desired confidence level (3.841).

N = the population size.

P = the population proportion (assumed to be .50 since this would provide the maximum sample size).

d = the degree of accuracy expressed as a proportion (.05).

表2 サンプル数の定義 (Krejcie&Morgan 1970)

N 母集団	S サンプル数
170	118
180	123
190	127
200	132
210	136

3.2 分析方法

3.2.1 アンケートの構成について

まず調査対象者の情報として学部について質問を設けた。

次に、「日本語の授業について」「日本語学習理由について」「日本語学習行動について」「日本語学習意欲を上下させる要因について」の四つのカテゴリーに分けた。

「日本語の授業について」「日本語学習理由について」「日本語学習行動について」に 23 の質問を設け、それぞれに「5: とてもそう思う」「4: そう思う」「3: どちらとも言えない」「2: そう思わない」「1: まったくそう思わない」の 5 件法で回答を求めた。

また、「日本語学習意欲を上下させる要因について」には 14 の質問を設け、それぞれに「5: やる気がとても出た」「4: やる気が出た」「3: 変化なし」「2: やる気が下がった」「1: やる気がとても下がった」の 5 件法で回答を求めた。こちらも、結果の分析方法については各質問項目の平均値を以下の値で測定し分析した。

結果の分析方法については各質問項目の平均値を以下の値で測定し分析した。

表3 平均値の評価基準

平均値	評価
4.21–5.00	とても高い (Very high)
3.41–4.20	高い (High)
2.61–3.40	どちらでもない (Moderate)
1.81–2.60	低い (Low)
1.00–1.80	とても低い (Very low)

本調査では統計プログラムソフト (SPSS) を使用し、データを集計し、さらに記述統計と推測統計を用いて分析を行った。

記述統計は調査対象者の情報をパーセンテージを用いた要約や、各アンケート項目の平均値、標準偏差の分析において用いた。推測統計は仮説検証において、一元配置分散分析とその後の多重比較の最小有意差を使用し、各学部毎の属性の間に有意差が見られるのかについての分析に用いた。

3.2.2 質問項目のカテゴリー

以下の表4から表7はアンケートの質問をカテゴリーごとにまとめたものである。

表4 日本語の授業について (カテゴリーA)

การเรียนรู้ภาษาญี่ปุ่น / 日本語の授業について	
1 (A1)	รู้สึกว่าการเรียนภาษาญี่ปุ่นวิชาเลือกนี้ สนุก / 今の科目は楽しい
2 (A2)	รู้สึกว่าการเรียนภาษาญี่ปุ่นวิชาเลือกนี้ ง่าย / 今の科目は易しい
3 (A3)	รู้สึกว่าภาษาญี่ปุ่นวิชาเลือกนี้ เป็นวิชาที่มีประโยชน์ / 今の科目は為になる
4 (A4)	รู้สึก ว่าอยากเรียนภาษาญี่ปุ่นต่อไปหลังจากเรียนจบจากสถาบัน / これからも日本語の勉強を続けたい

表5 日本語学習理由 (カテゴリーB)

เหตุผลที่เรียนภาษาญี่ปุ่น / 日本語学習理由	
5 (B1)	เพราะถ้าได้ภาษาญี่ปุ่นจะได้เงินเดือนดี / 日本語ができれば給料がいいから
6 (B2)	เพราะอยากทำงานที่บริษัทญี่ปุ่นในประเทศไทย / 将来、タイにある日系企業で働きたいから
7 (B3)	เพราะอนาคตอยากทำงานที่เกี่ยวข้องกับคนญี่ปุ่น / 将来、タイで日系企業以外で日本人とかかわる仕事がしたいから
8 (B4)	เพราะอยากทำงานที่ประเทศญี่ปุ่น / 将来、日本で就職したいから
9 (B5)	เพราะอยากไปเรียนต่อที่ประเทศญี่ปุ่น / 将来、日本で進学したいから
10 (B6)	เพราะชอบอนิเมะการ์ตูนภาพยนตร์ หรือ นวนิยายญี่ปุ่น / 日本のまんがやアニメが好きだから
11 (B7)	เพราะชอบเพลงญี่ปุ่น / 日本の歌が好きだから
12 (B8)	เพราะอยากไปเที่ยวญี่ปุ่น / 日本を旅行したいから
13 (B9)	เพราะอยากเรียนรู้วัฒนธรรมญี่ปุ่น / 日本の文化を知りたいから
14 (B10)	เพราะมีเพื่อนคนญี่ปุ่นอยู่แล้ว / 日本人の友達がいるから
15 (B11)	เพราะอยากมีเพื่อนคนญี่ปุ่น / 日本人の友達が欲しいから

表 6 日本語学習行動 (カテゴリーC)

วิธีการเรียนภาษาญี่ปุ่นนอกชั้นเรียน / 日本語学習行動	
16 (C1)	ถามอาจารย์เกี่ยวกับภาษาญี่ปุ่นหรือวัฒนธรรมญี่ปุ่นนอกเวลาเรียน / 授業時間以外でも先生に日本語や日本文化について質問をする
17 (C2)	เข้าร่วมกิจกรรมต่างๆที่ใช้ภาษาญี่ปุ่นนอกชั้นเรียนเช่นเข้าสอบ JLPT, J-Challenge, Speech Contest เป็นต้น / 自分の日本語能力を試す機会 (スピーチコンテストや JLPT など)があれば、積極的に参加している
18 (C3)	ร้องเพลงภาษาญี่ปุ่นและค้นหาความหมายของเนื้อเพลง / 日本語の歌を聞いたり歌ったり、歌詞の意味を調べたりしている
19 (C4)	ดูอะนิเมภาพยนตร์ละครหรือซีรีส์ภาษาญี่ปุ่น / 日本語でアニメや映画、ドラマ、番組等を見ている
20 (C5)	อ่านนวนิยายหรือการ์ตูนภาษาญี่ปุ่น / 日本語でマンガや小説等を読んでいる
21 (C6)	เล่นเกมโดยใช้ภาษาญี่ปุ่น / 日本語でゲームをしている
22 (C7)	ใช้ภาษาญี่ปุ่นผ่าน Social Network ต่างๆ / SNS で日本語を使っている
23 (C8)	เตรียมสอบวัดระดับภาษาญี่ปุ่นด้วยตัวเองเช่น JLPT / 自分で JLPT などの検定対策の勉強をしている
24 (C9)	เรียนพิเศษภาษาญี่ปุ่นที่ โรงเรียนสอนภาษาญี่ปุ่น / 日本語学校などで勉強している

表 7 日本語学習意欲を上下させる要因 (カテゴリーD)

ปัจจัยที่ทำให้มีแรงจูงใจในการเรียนภาษาญี่ปุ่น / 日本語学習意欲を上下させる要因	
25 (D1)	ตอนที่เนื้อหาในคาบเรียนวิชาภาษาญี่ปุ่นน่าสนใจ / 日本語の授業内容が面白いとき
26 (D2)	ตอนที่เนื้อหาในคาบเรียนวิชาภาษาญี่ปุ่นยาก / 日本語の授業の内容が難しいとき
27 (D3)	ตอนที่วิธีสอนภาษาญี่ปุ่นของอาจารย์เข้าใจง่าย / 日本語の授業で先生の教え方がわかりやすいとき
28 (D4)	ตอนที่ทำ Project วิชาภาษาญี่ปุ่น / プロジェクトしているとき
29 (D5)	ตอนที่สื่อสารกับอาจารย์ญี่ปุ่นได้เป็นอย่างดีโดยใช้ภาษาญี่ปุ่น / 日本人の先生と話してつたえたいことがうまく伝わったとき
30 (D6)	ตอนที่ไม่สามารถสื่อสารกับอาจารย์ญี่ปุ่นโดยใช้ภาษาญี่ปุ่นได้ / 日本人の先生と話してつたえたいことがうまく伝わらなかったとき

表 7 日本語学習意欲を上下させる要因（カテゴリーD）（続き）

31 (D7)	ตอนที่ทำการบ้านหรืองานต่างๆที่ได้รับมอบหมายจากอาจารย์ / 先生に出された課題をしているとき
32 (D8)	ตอนที่ได้ คะแนนสอบกลางภาคดีกว่าที่คิดไว้ / 中間試験がうまくできたとき
33 (D9)	ตอนที่ได้ คะแนนสอบกลางภาคน้อยกว่าที่คิดไว้ / 中間試験がうまくできなかったとき
34 (D10)	ตอนที่เรียนไวยากรณ์ตัวใหม่ / 新しい文法などを勉強しているとき
35 (D11)	ตอนที่โดนอาจารย์ที่สอนวิชาภาษาญี่ปุ่นดุ / 先生に怒られたとき
36 (D12)	ตอนที่อาจารย์ที่สอนวิชาภาษาญี่ปุ่นชม / 先生にほめられたとき
37 (D13)	ตอนที่เรียนกับอาจารย์ที่ใจดี / 先生が親切なとき
38 (D14)	ตอนที่ได้รับความคิดเห็น Feedback ต่างๆจากอาจารย์ / 先生からフィードバックをもらったとき

3.2.3 質問項目の妥当性

これらのアンケート項目は先行研究で実施されており、本調査では日本語とタイ語の両言語で配布した。アンケート項目の作成にあたり、まず日本語の項目をタイ語へ翻訳し、再度タイ語から日本語へ翻訳を行った。両言語における内容の妥当性については Harkness 他（2004）に基づき検証を行い相違がなかった。

また The Item-Objective Congruence (IOC) は、-1 から+1 までのスコア範囲に基づいてアンケート項目を評価するために使用した。適切である項目には 1 点、不適切な項目は-1 点、どちらでもない項目は 0 点とし、本アンケート項目の評価の結果においては以下のとおりである。

1 点が 28 項目、0 点が 7 項目、-1 点は 3 項目、計算式は $(28-3)/38=0.657$ となり、最低評価点は 0.5 であるため、本アンケートの質問項目は適切であるとみなされた。

3.3 信頼性分析

Cronbach のアルファ係数を使用し信頼性分析を行った。分析には SPSS を使用し、表 8 のアルファ係数では「日本語学習について」を除き、Nunnally, J., & Bernstein, I., (1994) が推奨する最小許容レベル.700 を上回っている。

表 8 信頼性分析

カテゴリー	Cronbach's Alpha	Cronbach's Alpha Based on Standardize Items	N. of Item
日本語の授業について	.606	.617	4
日本語学習理由	.767	.782	11
日本語学習行動	.832	.836	9
日本語学習意欲を上下させる 要因	.845	.847	14

第4章 データ分析

この章では日本語の授業、学習理由、学習行動と学習意欲を上下させる要因についてのアンケートを3つの要因から調査を行い、そこで得られた結果を以下の3つの観点から分析する。

4.1 調査対象者

4.2 日本語の授業、学習理由、学習行動、学習意欲を上下させる要因について

4.3 仮説検証

4.1 調査対象者

このアンケート調査では、TNI の JPN301 Business Japanese コース終了後の日本語選択科目を履修した学生を対象に調査を実施した。対象者 195 名のうち、168 名から有効な回答を得ることができた。調査は質問紙によるアンケートを行った。

4.1.1 「学部」

表1 学部

学部	対象者数	有効回答者数	割合
経営学部	86名	70名	36.9%
工学部	47名	36名	41.7%
情報学部	62名	62名	21.4%
合計	195名	168名	100%

表 9 はアンケート回答者の学部別の割合を示している。168 名の回答者のうち経営学部の学生は 70 名で 36.9%、工学部の学生が 36 名で 41.7%、情報学部の学生は 62 名で 21.4% であった。

4.2 日本語の授業、日本語学習理由、学習行動、学習意欲について

本調査では日本語学習について 38 の質問を実施した。そして、4 つのカテゴリーに分けた。「日本語の授業について」、「日本語学習理由について」、「日本語学習行動について」、「日本語学習意欲を上下させる要因について」である。

「日本語の授業について」、「日本語学習理由について」、「日本語学習行動について」の質問に対し、「5：とてもそう思う」「4：そう思う」「3：どちらとも言えない」「2：あまりそう思わない」「1：まったくそう思わない」の 5 件法で回答してもらった。

つぎに「日本語学習意欲を上下させる要因について」は、「5：とてもやる気が出た」「4：やる気が出た」「3：変化なし」「2：やる気が下がった」「1：やる気がとても下がった」の 5 件法で回答してもらった。

データ分析は統計プログラムソフト（SPSS）を使用した。そして、各項目の平均値は表 3（P.12）に示したように以下の値で評価した。4.21 以上 5.00 以下の値は「とても高い（Very high）」、3.41 以上 4.20 以下の値は「高い（High）」、2.61 以上 3.40 以下の値は「どちらでもない（Moderate）」、1.81 以上 2.60 以下の値は「低い（Low）」、1.00 以上 1.80 以下の値は「とても低い（Very low）」である。

4.2.1 「日本語の授業について」

表2 「日本語の授業について」の結果

日本語の授業について	Mean	S.D	評価
今の授業は為になる	4.43	.689	Very High
これからも日本語の勉強を続けたい	4.24	.891	Very High
今の授業は楽しい	4.17	.852	High
今の授業は易しい	3.12	1.120	Moderate

表 10 は「日本語の授業について」のアンケート結果である。平均値の高い順に並べ替えた。このカテゴリーの中で最も平均値が高い質問は「今の授業は為になる (4.43) 」であった。2 番目に「これからも日本語の勉強を続けたい (4.24) 」であった。この 2 つの質問結果を見ると、必修科目とは異なり、あえて選択科目を履修する学生の回答であることから、日本語をより深く勉強したい学生が多いことが分かる

そして「授業は楽しい (4.17) 」となった。これは学習内容が難しくなっていくことで日本語学習が楽しくないと感じる学生が少なからずいることが分かる。

続いて「今の授業は易しい (3.12) 」が最下位となっていることから、日本語選択科目は JPN の学生にとっては難しいと言える。しかし、S.D が 1.120 と高い。したがって、今の授業は易しいと思っている学生もいれば、難しいと思っている学生もいるということである。

4.2.2 「日本語学習理由について」

表 3 「日本語学習理由について」の結果

日本語学習理由について	Mean	S.D	評価
日本を旅行したいから	4.61	.665	Very High
日本のマンガやアニメが好きだから	4.30	.927	Very High
日本の文化を知りたいから	4.29	.891	Very High
日本の歌が好きだから	4.18	1.042	High
日本語ができたら給料がいいから	4.11	1.067	High
日本人の友達が欲しい	4.02	1.012	High

表 11 「日本語学習理由について」の結果（続き）

将来、タイで日系企業以外で日本人と関わる仕事がしたいから	3.99	1.006	High
将来、日本で就職したいから	3.86	1.170	High
将来、日本で進学したいから	3.85	1.212	High
将来、タイにある日系企業で働きたいから	3.77	1.089	High
日本人の友達がいるから	2.84	1.533	Moderate

表 11 は「日本語学習理由について」のアンケート結果である。こちら平均値の高い順に並べ替えた。この中でもっとも平均値が高いものは「日本を旅行したいから (4.61)」である。S.D も 0.665 と低いことから、かなり多くの学生は日本への旅行に高い関心を持っていることが分かる。

つぎに、「日本のマンガやアニメが好きだから (4.30)」や「日本の文化を知りたいから (4.29)」となっている。この 2 つの項目も **very high** であるが、「日本を旅行したいから (4.61)」に比べると、S.D が 0.927、0.891 高くなっており、ややばらつきがあることが分かる。

High には「日本語ができれば給料がいいから」、「将来、タイで日系企業以外で日本人とかかわる仕事がしたいから」、「将来、日本で就職したいから」、「将来、タイにある日系企業で働きたいから」が入ってきており、将来日本と関わりがある仕事に就きたいと考える学生が多いことがわかる。

平均値がもっとも低い項目は「日本人の友達がいる」であった。これは日本人との交流の機会の少なさが影響していると考えられる。

4.2.3 「日本語学習行動について」

表 12 「日本語学習行動について」の結果

日本語学習行動について	Mean	S.D	評価
日本語でアニメや映画、ドラマ、番組等を見ている	4.38	.901	Very High
自分で JLPT などの検定対策の勉強をしている	3.85	1.103	High
日本の歌を聞いたり歌ったり、歌詞の意味を調べたりしている	3.51	1.322	High
日本語でゲームをしている	3.46	1.409	High
SNS で日本語を使っている	3.40	1.328	Moderate
日本語でマンガや小説等を読んでいる	3.29	1.420	Moderate
自分の日本語能力を試す機会（スピーチコンテストや JLPT など）があれば、積極的に参加している	3.28	1.393	Moderate
授業時間以外でも先生に日本語や日本文化について質問をする	3.13	1.151	Moderate
日本語学校などで勉強している	2.66	1.484	Moderate

表 12 は「日本語学習行動について」のアンケート結果である。授業以外に、どうやって日本語を学習しているかを聞いたものである。この中で平均値がもっとも高いものは「日本語でアニメや映画、ドラマ、番組等を見ている（4.38）」であった。日本語選択科目受講の学生は身近に見ることができるもので日本語に接していることが分かった。一方、「日本語でマンガや小説等を読んでいる（3.29）」は平均値 3.29 と大きくない。これは、見ることの方が、読むことより気軽に日本語に接することができるのではないかと考える。

続いて、LevelがHighである項目、「自分で JLPT などの検定対策の勉強をしている (3.85)」、「日本語の歌を聞いたり歌ったり、歌詞の意味を調べたりしている (3.51)」、「日本語でゲームをしている (3.46)」となっている。

Moderate が 5 項目となっており、「SNS で日本語を使っている (3.40)」、「日本語でマンガや小説等を読んでいる (3.29)」では、文字に対して日本語を学ぶ姿勢が伺える。

「自分の日本語能力を試す機会 (スピーチコンテストや JLPT など) があれば、積極的に参加している (3.28)」、「授業時間以外でも先生に日本語や日本文化について質問をする (3.13)」、「日本語学校などで勉強している (2.66)」となっていることから、多くの学生は大学の授業を中心に日本語を学習しているといえる。

4.2.4 「日本語学習意欲を上下させる要因について」

表 13 「日本語学習意欲を上下させる要因について」の結果

日本語学習意欲を上下させる要因について	Mean	S.D	評価
先生が親切なとき	4.32	.891	Very High
先生からフィードバックをもらったとき	4.24	.863	Very High
日本語の授業で先生の教え方がわかりやすいとき	4.17	.920	High
日本人の先生と話して伝えたいことがうまく伝わったとき	4.14	.909	High
日本語の授業の内容がおもしろいとき	4.13	.926	High
先生に褒められたとき	4.02	1.003	High
中間試験がうまくできたとき	3.95	.927	High
新しい文法などを勉強しているとき	3.61	1.122	High

表 13 「日本語学習意欲を上下させる要因について」の結果（続き）

日本語の授業の内容がむずかしいとき	3.43	1.119	High
先生に出された課題をしているとき	3.43	.964	High
プロジェクトをしているとき	3.40	.961	Moderate
日本人の先生と話し伝えたいことがうまく伝わらなかったとき	3.31	1.228	Moderate
中間試験がうまくできなかったとき	3.27	1.216	Moderate
先生に怒られたとき	2.69	1.281	Moderate

表 13 は「日本語学習意欲を上下させる要因について」のアンケート結果である。「先生が親切なとき (4.32)」、「先生からフィードバックをもらったとき (4.24)」と先生とコミュニケーションをして関わったとき、学習意欲が高くなったことが分かった。他に先生と関わる項目に「日本人の先生と話してつたえたいことがうまく伝わったとき (4.14)」、「先生に怒られたとき (4.02)」と平均値が High が続いている。平均値が Moderate では「日本人の先生と話してつたえたいことがうまく伝わらなかったとき (3.31)」、「先生に怒られたとき (2.69)」となっている。「先生に褒められたとき (4.02)」は学習意欲が高くなり、「先生に怒られたとき」は学生の学習意欲が下がった。授業に対しての項目では、「日本語の授業で先生の教え方がわかりやすいとき (4.17)」、「日本語の授業の内容がおもしろいとき (4.13)」、「新しい文法などを勉強しているとき (3.61)」、「日本語の授業の内容がむずかしいとき (3.43)」と評価 High である。授業が分かりやすかったり、おもしろかったときは学習意欲が高くなるが、新しい文法や授業が難しいときは学習意欲が高くないことがわかる。

評価が Moderate に「プロジェクトをしているとき (3.40)」、「中間試験がうまくできなかったとき (3.27)」がある。「プロジェクトをしているとき」のプロジェクトとは JPN の授業におけるアクティビティの一環で、学生がグループを作り、学生が教師から与

えられたお題について調べたことを日本語で発表する活動である。このプロジェクト活動では、学生が授業外にグループで発表内容を調べたり、担当教員と会って発表の準備をしたりする。授業以外の時間を使い、日本語の学習を行っているが、それほど学習意欲の向上に寄与していないことがわかる。

また、今回のアンケートは期末試験後に行ったため、中間試験によって試験の結果が学習意欲に影響したかを測った。結果的に試験の結果が良くても、学習意欲の高低にそれほど影響を与えないことがわかる。

ここまでのアンケート内容を要約すると、表 10 から日本語選択科目を受講する学生は日本語の授業に対し、自分の日本語能力向上にプラスになると考え、今後も引き続き勉強を持続したいと考えている。ただし、授業を易しいと考えている学生もいれば、難しいと考えている学生も存在し、ばらつきがある。また、表 11 から日本語学習理由は、日系企業への就職や留学することより、旅行がしたいことや漫画アニメが好き、日本の文化を知りたいといったことが多い。そして、表 12 から日本語学習行動は、日本語でアニメや映画、ドラマなどを見て勉強している学生が多い。次に表 13 から日本語学習意欲を上下させる要因として、日本語教師の親切な対応やフィードバックにより学習意欲が高まり、教師との会話や試験が上手にできなかったり、教師に怒られたとき意欲が低下している。

4.3 仮説検証

調査対象である経営学部、工学部、情報学部といった各学部の学生は、日本語学習の姿勢に違いがあるのかという点から仮説の検証を行う。仮説における属性は「学部別」である。カテゴリーとしては、カテゴリーAを「日本語授業について」、カテゴリーBを「日本語学習理由について」、カテゴリーCを「日本語学習行動について」、カテゴリーDを「日本語学習意欲を上下させる要因について」に分ける。そして、その4つのカテゴリーに対し、属性による有意差について分析する。

4.3.1 仮説 1

各学部ごとには、カテゴリーAの「日本語の授業について」の差異は見られない。

$$H_0 : \mu_1 = \mu_2 = \mu_3 \quad (BA=E=IT)$$

$$H_1 : \mu_1 \neq \mu_i$$

表 14 仮説 1 一元配置分散分析 (カテゴリーA)

従属変数及び因子		N	Mean	Std. Deviation	F	Sig.
A1 今の科目は楽しい	BA	70	4.24	.892	.972	.380
	E	36	4.00	.926		
	IT	62	4.18	.758		
	Total	168	4.17	.852		
A2 今の科目は易しい	BA	70	3.13	1.141	.164	.849
	E	36	3.03	1.207		
	IT	62	3.16	1.059		
	Total	168	3.12	1.120		
A3 今の科目は為になる	BA	70	4.51	.608	.818	.443
	E	36	4.36	.931		
	IT	62	4.39	.610		
	Total	168	4.43	.689		
A4 これからも日本語の勉強を 続けたい	BA	70	4.13	.962	.917	.402
	E	36	4.33	.756		
	IT	62	4.31	.879		
	Total	168	4.24	.891		

表 14 において、A1「今の科目は楽しい」の有意確率は.380 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

A2「今の科目は易しい」の有意確率は.849 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

A3「今の科目は為になる」の有意確率は.443 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

A4「これからも日本語の勉強を続けたい」の有意確率は.402 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

つまり、カテゴリーAにおいては各学部間に有意差が認められなかった。よって、仮説のとおり、各学部の学生は同じような傾向であることが分かった。なお、項目 A2 のみすべての学部において S.D が 1 を超えており、ばらつきがみられた。これは A2 の「今の科

目は易しい」という質問に対し、学生の多くは「そうとは思わない」と考えているものの易しいと考える学生もいれば、難しいと考える学生もいるということを示している。

4.3.2 仮説 2

各学部ごとには、カテゴリーBの「日本語学習理由」の差異は見られない。

$$H_0 : \mu_1 = \mu_2 = \mu_3 \quad (BA=E=IT)$$

$$H_1 : \mu_1 \neq \mu_i$$

表 15 仮説 2 一元配置分散分析 (カテゴリーB)

従属変数及び因子		N	Mean	Std. Deviation	F	Sig.
B1 日本語ができたなら給料がいいから	BA	70	4.06	1.190	1.039	.356
	E	36	4.33	.926		
	IT	62	4.03	.991		
	Total	168	4.11	1.067		
B2 将来、タイにある日系企業で働きたいから	BA	70	3.89	1.097	2.759	.066
	E	36	3.97	1.108		
	IT	62	3.52	1.036		
	Total	168	3.77	1.089		
B3 将来、タイで日系企業以外で日本人と関わる仕事がしたいから	BA	70	3.86	1.026	2.437	.091
	E	36	4.31	.856		
	IT	62	3.97	1.040		
	Total	168	3.99	1.006		
B4 将来、日本で就職したいから	BA	70	3.70	1.159	3.536	.031
	E	36	4.31	.951		
	IT	62	3.77	1.247		
	Total	168	3.86	1.170		
B5 将来、日本で進学したいから	BA	70	3.89	1.186	1.480	.231
	E	36	3.56	1.362		
	IT	62	3.98	1.138		
	Total	168	3.85	1.212		
B6 日本のまんがやアニメが好きだから	BA	70	4.09	1.073	3.468	.033
	E	36	4.50	.697		
	IT	62	4.44	.822		
	Total	168	4.30	.927		

表 15 仮説 2 一元配置分散分析 (カテゴリーB) (続き)

B7 日本の歌が好きだから	BA	70	3.91	1.236	4.886	.009
	E	36	4.22	.929		
	IT	62	4.47	.762		
	Total	168	4.18	1.042		
B8 日本を旅行したいから	BA	70	4.57	.627	.270	.764
	E	36	4.67	.586		
	IT	62	4.63	.752		
	Total	168	4.61	.665		
B9 日本の文化を知りたいから	BA	70	4.23	.935	.567	.568
	E	36	4.25	1.025		
	IT	62	4.39	.754		
	Total	168	4.29	.891		
B10 日本人の友達がいるから	BA	70	2.77	1.590	.352	.704
	E	36	3.03	1.464		
	IT	62	2.81	1.524		
	Total	168	2.84	1.533		
B11 日本人の友達が欲しいから	BA	70	4.07	1.040	.201	.818
	E	36	3.94	1.013		
	IT	62	4.00	.992		
	Total	168	4.02	1.012		

表 15 において、B1「日本語ができれば給料がいいから」の有意確率は.356 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

B2「将来、タイにある日系企業で働きたいから」の有意確率は.066 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。しかし、有意な傾向が認められる。

B3「将来、タイで日系企業以外で日本人と関わる仕事がしたいから」の有意確率は.091 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

B4「将来、日本で就職したいから」の有意確率は.031 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より低いことから差異が見られた。よって、この仮説では H_0 は棄却された。

B5「将来、日本で進学したいから」の有意確率は.231 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

B6「日本のまんがやアニメが好きだから」の有意確率は.033 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より低いことから差異が見られた。よって、この仮説では H_0 は棄却された。

B7「日本の歌が好きだから」の有意確率は.009 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より低いことから差異が見られた。よって、この仮説では H_0 は棄却された。

B8「日本を旅行したいから」の有意確率は.764 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

B9「日本の文化を知りたいから」の有意確率は.568 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

B10「日本人の友達がいるから」の有意確率は.704 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

B11「日本人の友達が欲しいから」の有意確率は.818 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

つぎに項目 B2 や B4、B6、B7 のように、差異が見られたまたは傾向が見られた項目に対し、さらに学部間の多重比較の最小有意差を求めた。

表 16 仮説 2 その後の多重比較の最小有意差 (カテゴリー-B2)

Dependent Variable			Mean Difference (I-J)	Std. Error	Sig.
B2 将来、タイにある日系企業で働きたいから	BA	E	-.087	.221	.696
		IT	.370	.188	.051
	E	IT	.456*	.226	.045

表 16 において、B2「将来タイにある日系企業で働きたいから」では、E と IT の有意差は.045 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より低いことから差異が見られた、また、BA と IT の有意差は.051 であり、差異がある傾向が見られた。

さらに B2 の各学部ごとの平均値と標準偏差を算出すると以下の表 17 のとおりである。

表 17 仮説 2 項目 B2 の各学部ごとの Mean と S.D

学部	Mean	SD
BA	3.89	1.097
E	3.97	1.108
IT	3.52	1.036

表 17 では、IT つまり、情報学部の学生は経営学部や工学部の学生に比べると日系企業への就職といった道具的動機が比較的低いことがわかる。

表 18 仮説 2 項目 B4 のその後の多重比較の最小有意差

Dependent Variable			Mean Difference (I-J)	Std. Error	Sig.
B4 将来、日本で就職したいから	BA	E	-.606*	.236	.011
		IT	-.074	.201	.713
	E	IT	.531*	.242	.029

表 18 では、B4「将来、日本で就職したいから」において、BA と E、そして E と IT の有意差は.011 と.029 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より低いことから差異が見られた。次に B4 の各学部ごとの平均値と標準偏差を算出すると以下の表 19 のとおりである。

表 19 仮説 2 項目 B4 の各学部ごとの Mean と SD

学部	Mean	SD
BA	3.70	1.159
E	4.31	.951
IT	3.77	1.247

表 19 では、工学部の学生の多くは日本で就職したいと考えており、経営学部や情報学部比べて顕著であった。

B2「将来、タイにある日系企業で働きたいから」と B4「将来、日本で就職したいから」の分析から、表 17 より情報学部の学生は日本の企業に就職したいという意思が強くない学生が多い。そして、経営学部の学生はタイにある日系企業に就職したい傾向はあるが、表 19 より日本に行って働きたいとは思っていない傾向がある。その一方、工学部の学生はタイに進出した日系企業や日本での就業に意欲のある学生が他の学部の学生に比べ多い傾向があるということがわかった。

しかし、工学部の学生に焦点を当てると、B2「将来、タイにある日系企業で働きたいから」と B4「将来、日本で就職したいから」の Mean を比べると、「将来、タイにある日系企業で働きたいから」が 3.97 であるのに対し、「将来、日本で就職したいから」は 4.31

であった。また、B2 と B3「将来、タイで日系企業以外で日本人と関わる仕事がしたいから」の Mean を比べると B2 が 3.97 であり、B3 が 4.31 と開きがあった。したがって、単純に工学部の学生は日系企業に勤めたいとは考えていないことがわかる。

表 20 仮説 2 項目 B6 のその後の多重比較の最小有意差

Dependent Variable			Mean Difference (I-J)	Std. Error	Sig.
B6 日本のまんがやアニメが好きだから	BA	E	-.414*	.187	.028
		IT	-.350*	.159	.030
	E	IT	.065	.191	.737

表 20 では、B6「日本のまんがやアニメが好きだから」において、BA と E、そして BA と E の有意差は.028 と.030 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より低いことから差異が見られた。次に B6 の各学部ごとの平均値と標準偏差を算出すると以下の表 21 のとおりである。

表 21 仮説 2 項目 B6 の各学部ごとの Mean と SD

学部	Mean	SD
BA	4.09	1.073
E	4.50	.697
IT	4.44	.822

表 21 では、経営学部の学生は工学部や情報学部の学生に比べると日本のまんがやアニメが好きな学生は少ないことがわかる。また、S.D も 1.073 とばらつきがあり、日本のまんがやアニメが好きな学生もいれば、それほど好きではない学生もいる。

表 22 仮説 2 その後の多重比較の最小有意差 (カテゴリーB7)

Dependent Variable			Mean Difference (I-J)	Std. Error	Sig.
B7 日本の歌が好きだから	BA	E	-.308	.209	.142
		IT	-.553*	.178	.002
	E	IT	-.246	.213	.252

表 22 では、B7「日本の歌が好きだから」において、BA と IT の有意差は.002 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より低いことから差異が見られた。次に B6 の各学部ごとの平均値と標準偏差を算出すると以下の表 23 のとおりである。

表 23 仮説 2 項目 B7 の各学部ごとの Mean と SD

学部	Mean	SD
BA	3.91	1.236
E	4.22	.929
IT	4.47	.762

表 23 では、情報学部の学生は経営学部や工学部の学生に比べると日本の歌が好きな学生が多いことがわかる。

4.3.3 仮説 3

各学部ごとには、カテゴリーC「日本語学習行動について」の差異は見られない。

$$H_0 : \mu_1 = \mu_2 = \mu_3 \quad (E=IT=BA)$$

$$H_1 : \mu_1 \neq \mu_i$$

表 24 仮説 3 カテゴリーC の一元配置分散分析

従属変数及び因子		N	Mean	Std. Deviation	F	Sig.
C1 授業時間以外でも先生に日本語や日本文化について質問をする	BA	70	3.23	1.299	.880	.417
	E	36	2.92	1.105		
	IT	62	3.15	.989		
	Total	168	3.13	1.151		
C2 自分の日本語能力を試す機会があれば、積極的に参加している	BA	70	3.16	1.410	.498	.609
	E	36	3.42	1.339		
	IT	62	3.34	1.414		
	Total	168	3.28	1.393		
C3 日本語の歌を聞いたり歌ったり、歌詞の意味を調べたりしてる	BA	70	3.33	1.432	1.494	.227
	E	36	3.50	1.342		
	IT	62	3.73	1.162		
	Total	168	3.51	1.322		

表 24 仮説 3 カテゴリーCの一元配置分散分析 (続き)

C4 日本語でアニメや映画、ドラマ、番組等を見ている	BA	70	4.26	1.017	1.157	.317
	E	36	4.44	.909		
	IT	62	4.48	.741		
	Total	168	4.38	.901		
C5 日本語でマンガや小説等を読んでいる	BA	70	3.03	1.464	2.087	.127
	E	36	3.47	1.404		
	IT	62	3.48	1.352		
	Total	168	3.29	1.420		
C6 日本語でゲームをしている	BA	70	3.30	1.526	.821	.442
	E	36	3.64	1.417		
	IT	62	3.53	1.264		
	Total	168	3.46	1.409		
C7 SNS で日本語を使っている	BA	70	3.39	1.477	1.246	.290
	E	36	3.69	1.167		
	IT	62	3.26	1.227		
	Total	168	3.40	1.328		
C8 自分で JLPT などの検定対策の勉強をしている	BA	70	3.89	1.174	3.845	.023
	E	36	4.22	.959		
	IT	62	3.60	1.047		
	Total	168	3.85	1.103		
C9 日本語学校などで勉強している	BA	70	2.77	1.553	.962	.384
	E	36	2.36	1.397		
	IT	62	2.71	1.453		
	Total	168	2.66	1.484		

表 24 において、C1「授業時間以外でも先生に日本語や日本文化について質問をする」の有意確率は.417であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

C2「自分の日本語能力を試す機会があれば、積極的に参加している」の有意確率は.609であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

C3「日本語の歌を聞いたり歌ったり、歌詞の意味を調べたりしてる」の有意確率は.227であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

C4「日本語でアニメや映画、ドラマ、番組等を見ている」の有意確率は.317であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

C5「日本語でマンガや小説等を読んでいる」の有意確率は.127であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

C6「日本語でゲームをしている」の有意確率は.442 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

C7「SNS で日本語を使っている」の有意確率は.290 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

C8「自分で JLPT などの検定対策の勉強をしている」の有意確率は.023 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より低いことから差異が見られた。よって、この仮説では H_0 は棄却された。

C9「日本語学校などで勉強している」の有意確率は.384 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

つぎに C8 のように、差異が見られた項目に対し、さらに学部間の多重比較の最小有意差を求めた。

表 25 仮説 3 項目 C8 のその後の多重比較の最小有意差

Dependent Variable			Mean Difference (I-J)	Std. Error	Sig.
C8 自分で JLPT などの検定対策の勉強をしている	BA	E	-.337	.223	.132
		IT	.289	.189	.129
	E	IT	.625*	.227	.007

表 25 では、C8「自分で JLPT などの検定対策の勉強をしている」において、E と IT の有意差は.007 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より低いことから差異が見られた。次に C8 の各学部ごとの平均値と標準偏差を算出すると以下の表 26 のとおりである。

表 26 仮説 3 項目 C8 の各学部ごとの Mean と SD

学部	Mean	SD
BA	3.89	1.174
E	4.22	.959
IT	3.60	1.047

表 26 では、工学部は「自分で JLPT などの検定対策の勉強をしている」学生が最も多い傾向であることがわかる。続いて経営学部の学生となっており、情報学部が「自分で JLPT などの検定対策の勉強をしている」学生が最も少ない傾向となっている。

4.3.4 仮説4

各学部ごとには、カテゴリーD「学習意欲を上下させる要因」の差異は見られない。

$$H0 : \mu 1 = \mu 2 = \mu 3 \quad (E=IT=BA)$$

$$H1 : \mu 1 \neq \mu i$$

表 27 仮説4 カテゴリーDの一元配置分散分析

従属変数及び因子		N	Mean	Std. Deviation	F	Sig.
D1 日本語の授業の内容がおもしろいとき	BA	70	4.09	.928	.390	.678
	E	36	4.25	.937		
	IT	62	4.11	.925		
	Total	168	4.13	.926		
D2 日本語の授業の内容がむずかしいとき	BA	70	3.47	1.164	.066	.936
	E	36	3.42	1.156		
	IT	62	3.40	1.063		
	Total	168	3.43	1.119		
D3 日本語の授業で先生の教え方がわかりやすいとき	BA	70	4.09	.974	.483	.618
	E	36	4.25	.967		
	IT	62	4.21	.832		
	Total	168	4.17	.920		
D4 プロジェクトしているとき	BA	70	3.44	1.016	.160	.852
	E	36	3.33	1.095		
	IT	62	3.39	.817		
	Total	168	3.40	.961		
D5 日本人の先生と話し伝えたいことがうまく伝わったとき	BA	70	4.13	.947	.039	.961
	E	36	4.11	.854		
	IT	62	4.16	.909		
	Total	168	4.14	.909		
D6 日本人の先生と話し伝えたいことがうまく伝わらなかったとき	BA	70	3.43	1.246	1.074	.344
	E	36	3.39	1.337		
	IT	62	3.13	1.138		
	Total	168	3.31	1.228		
D7 先生に出された課題をしているとき	BA	70	3.60	1.027	2.102	.125
	E	36	3.42	.967		
	IT	62	3.26	.867		
	Total	168	3.43	.964		

表 27 仮説 4 カテゴリーDの一元配置分散分析 (続き)

D8 中間試験がうまくできたとき	BA	70	3.90	1.038	.237	.789
	E	36	4.03	.941		
	IT	62	3.97	.789		
	Total	168	3.95	.927		
D9 中間試験がうまくできなかったとき	BA	70	3.46	1.236	2.502	.085
	E	36	3.36	1.268		
	IT	62	3.00	1.131		
	Total	168	3.27	1.216		
D10 新しい文法などを勉強しているとき	BA	70	3.59	1.148	.778	.461
	E	36	3.81	1.261		
	IT	62	3.52	1.004		
	Total	168	3.61	1.122		
D11 先生に怒られたとき	BA	70	2.90	1.309	2.405	.093
	E	36	2.75	1.461		
	IT	62	2.42	1.095		
	Total	168	2.69	1.281		
D12 先生にほめられたとき	BA	70	4.19	.997	1.577	.210
	E	36	3.92	.996		
	IT	62	3.90	1.003		
	Total	168	4.02	1.003		
D13 先生が親切なとき	BA	70	4.34	.866	.061	.941
	E	36	4.33	.894		
	IT	62	4.29	.930		
	Total	168	4.32	.891		
D14 先生からフィードバックをもらったとき	BA	70	4.17	.884	.357	.700
	E	36	4.28	.849		
	IT	62	4.29	.857		
	Total	168	4.24	.863		

表 27 において、項目 D1「日本語の授業の内容がおもしろいとき」の有意確率は.678 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

D2「日本語の授業の内容がむずかしいとき」の有意確率は.936 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

D3「日本語の授業で先生の教え方がわかりやすいとき」の有意確率は.618 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

D4「プロジェクトしているとき」の有意確率は.852 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

D5「日本人の先生と話し伝えたいことがうまく伝わったとき」の有意確率は.961 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

D6「日本人の先生と話し伝えたいことがうまく伝わらなかったとき」の有意確率は.344 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

D7「先生に出された課題をしているとき」の有意確率は.125 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

D8「中間試験がうまくできたとき」の有意確率は.789 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

D9「中間試験がうまくできなかったとき」の有意確率は.085 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

D10「新しい文法などを勉強しているとき」の有意確率は.461 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

D11「先生に怒られたとき」の有意確率は.093 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

D12「先生にほめられたとき」の有意確率は.210 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

D13「先生が親切なとき」の有意確率は.941 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

D14「先生からフィードバックをもらったとき」の有意確率は.700 であり、有意水準 ($\alpha=.050$) より高いことから差異が見られない。

以上のことから、カテゴリーD「学習意欲を上下させる要因」において、項目 D1 から D14 の質問で経営学部、工学部、情報学部の各学部の学生に差異は見られず、同じよう傾向であることがわかった。

第5章 結論と提言

5.1 調査結果の分析

5.1.1 4章の要約

本アンケート調査では TNI のビジネス日本語コース (JPN) の選択科目履修者を対象に調査を実施し、168 名から回答が得られた。

対象者の内訳は学部別で次の通りである。経営学部 70 名、工学部 36 名、情報学部 62 名であった。

アンケートにおける 4 つのカテゴリーそれぞれで、そう思うと考える学生の平均値が高かったものは以下の通りであった。

カテゴリー A の「日本語の授業について」では、「今の授業は為になる」の平均値が最も高かった。

カテゴリー B の「日本語学習理由について」では、「日本を旅行したいから」の平均値が最も高かった。ここでは旅行をしたいや漫画が好き、日本文化を知りたいなどといった「文化理解志向」が上位に続き、次に給料がよくなるや日本で働きたい等といった「道具的志向」や、「日本人の友だちが欲しい」といった国際性志向が続いた。ここから、対象の学生では、道具的動機より統合的動機が高いことが分かった。

カテゴリー C の「日本語学習行動について」では、「日本語でアニメや映画、ドラマ、番組等を見ている」のみが **Very High** であった。対象学生は上記にもあったように「文化理解志向」が強く、統合的動機により日本語を学習する学生が多いことから、日本語学習行動も日本のアニメや映画等を見て日本語を学習しようとする学生が多いと考えられる。

カテゴリー D の「日本語学習意欲を上下させる要因について」では、「先生が親切なとき」「先生からフィードバックをもらったとき」に意欲が高まると思う学生の平均値が **Very High** であった。そして、「日本語の授業で先生の教え方がわかりやすいとき」や「日本人の先生と話して伝えたいことがうまく伝わったとき」が続いていた。

対象学生は日本語学習に対し、統合的動機が強い傾向があり、学習行動にも表れている。そして、日本語学習意欲を高める要因には「関係性」、「日本語学習内容」、「有能感」といった因子が見られた。

5.1.2 仮説の要約

本研究では各学部において、日本語学習に対する姿勢に差異が見られるかについて仮説検証を行った。

- ・仮説1「日本語授業について」では各学部には差異は見られなかった。
- ・仮説2「日本語学習理由」では、3項目に差異が見られた。

項目 B4 の「将来、日本で就職したいから」では、工学部は Mean が 4.31 ととても高く、日本での就職を希望し、それが学習理由となっている。一方、経営学部と情報学部は 3.70 と 3.77 となっており、同じぐらいの学習理由である。この項目の学習理由は道具的動機によって生じたものといえる。

項目 B6 の「日本のまんがやアニメが好きだから」では、経営学部の Mean が 4.09 であるのに比べ、工学部や情報学部の学生は 4.40 以上と非常に多くの学生が日本のまんがやアニメが好きなのが学習理由となっている。この項目の学習理由は統合的動機から生じた動機であるといえる。

項目 B7 の「日本の歌が好きだから」では、工学部と情報学部は Mean が 4.22 以上と高いのに比べ経営学部は 3.91 であった。つまり、工学部と情報学部の学生の多くは日本の歌が好きであることが学習理由となっている。この項目の学習理由も統合的動機から生じたものといえる。

- ・仮説3「日本語学習行動」では、1項目に差異が見られた。

項目 C8 の「自分で JLPT などの検定対策の勉強をしている」では、工学部の学生は Mean が 4.22 であったのに対し、経営学部が 3.89、情報学部が 3.60 であった。これは工学部の学生は JLPT などの検定が日本語を学習する行動となっている。そして、B4 の「将来、日本で就職したいから」でも工学部が高かった。工学部の学生のみ顕著であったこの2項目はお互いに何らかの関係があると考えられる。

- ・仮説4「学習意欲を上下させる要因」では各学部には差異は見られなかった。

5.2 先行研究との類似点

吉川（2011）のタイの高校生を対象とし、日本語学習意欲を高める要因と学習行動との関係を調査し、内発的動機づけの重要性を示唆している。これは表 13 の日本語学習意欲を上下させる要因の Mean 上位四つは「先生が親切なとき（4.32）」「先生からフィードバックをもらったとき（4.24）」「日本語の授業で先生の教え方がわかりやすいとき（4.17）」「日本人の先生と話して伝えたいことがうまく伝わったとき（4.14）」であった。これら上位四項目に「関係性」「日本語学習内容」「有能感」といった因子が見られたことから、吉川（2011）と共通の結果つまり、日本語意欲を高める要因に内発的動機づけが重要であるということが TNI の学生である対象学生からも得られた。

5.3 提言

TNI における JPN の日本語選択科目では、JPN302（JPN301 の続き）、JPN403（エンジニアのための日本語）、JPN415（読み書きのための日本語）、JPN417（会話のための日本語）がある。今回、日本語の授業、日本語学習理由や学習行動、学習意欲を上下させる要因についてを調査し、それらを分析したうえで、どのような改善が可能か次に述べてみたい。

5.3.1 「日本を旅行する」ための日本語講座

表 11 と表 15 の日本語学習動機において、「日本を旅行したいから（4.61）」は学部関係なく Mean が高かった。また、S.D も 0.665 であることから、多くの学生が日本を旅行したいことがわかる。したがって、日本への旅行を切り口に様々な日本の情景や社会、文化を知るような新たな選択科目の設置、もしくは現在の選択科目の学習内容に加えるような講義を学生が求めているといえる。

5.3.2 学生の様々な日本語能力に対応するための日本語講座設置

カテゴリーA の「日本語学習について」では、3 学部の学生に違いは見られなかった。また、JPN の日本語選択科目を受講する学生は統合的志向が強いことがわかった。そして、項目 A2 の「今の科目は易しい」の Mean が 3.12、S.D が 1.12 である。これは今の科目が

「易しい」「易しくも難しくもない」「難しい」と考える学生がいることを意味する。つまり、現在 JPN の選択科目と学生と日本語能力が釣り合っていないことを表している。

よって、JPN の学生が学生自身の能力に見合ったレベル別のクラスを設定し、学生が受講できるようにすべきと考える。JLPT で例えると、N1 や N2、N3、N4 といったレベルに合わせた授業の科目を設置することで、様々な日本語レベルの学生に対応できると考える。また、JPN 選択科目受講の学生の学習理由は、統合的動機から生じていると考えられることから、日本語やその背景の日本文化等をバランスよく学べる内容が望ましいと考える。

さらに、表 11 の日本語学習理由で明らかになったように、対象学生の多くが「日本のまんがやアニメが好き (4.30)」「日本の歌が好き (4.18)」の Mean がそれぞれ 4.30 と 4.18 であった。このことから、まんがやアニメを教材に取り入れたり、授業で日本の歌を歌うことで、学生の学習意欲をより強くする授業内容になると考える。

5.3.3 日系企業で働くための日本語講座

TNI は日本型ものづくりをタイで実践教育する経緯のもとに建学された。そして、ものづくりの現場において、現場で働く日本人と意思疎通をしやすいするために日本語が必修となっている。そういったなか必修科目としてひらがなの習得という初歩から日本語を学習する。1 学年から 3 学年前期までの必修科目を修了した後に、日本語選択科目を受講することができ、その選択科目の中に JPN403 エンジニアのための日本語が設置されている。これは主に工学部の学生を対象とした科目であり、工場の現場で日本人と意思疎通ができることを目的に日本語を学ぶ科目である。

その工学部が他学部 비해 顕著であったものに、表 15 の項目 B4「将来、日本で就職したいから」がある。これは工学部の学生 (Mean 4.31) が他の学部の学生 (経営学部は 3.70、情報学部は 3.77) に比べ、日本で就職したいという理由からの学習動機が強いことを表している。そして、表 15 から類似する項目 B2 と B4 の工学部の部分を比較すると、B2「タイの日系企業で働きたいから (工学部 3.97)」であり、B4「将来、日本で就職したいから (工学部 4.31)」となっている。このことから、工学部の学生がタイの日系企業で働きたいと強く願っているわけではないことがわかる。また、「どうして」将来日本で働きたいのかとより踏み込んだ調査をすることにより B2 と B4 の Mean の数値の違いが分析できない。よって、さらに原因を追究するような調査については今後の課題としたい。

つぎに、項目 B2 と B3 の工学部の部分を比較すると、B2「タイの日系企業で働きたいから（工学部 3.97）」に対し、B3「将来、タイで日系企業以外で日本人と関わる仕事がしたいから（工学部 4.31）」とタイの日系企業で働きたいことのほうが Mean が低い。この結果から、工学部の学生は日系企業以外で働き、日本人とパートナーシップを組んで仕事をしたい傾向があるということが読み取れる。これらのことから、JPN403 では現場で使える日本語の習得を重視しているが、その「現場」を重視しなくてもよいのではないかと考える。これは 3 年生前期までの JPN の必修科目の教科書にも言えることであり、現在 Workbook を作成し、脱「現場」の日本語教育を行おうとする方向性は間違っていないと考える。

ただし、表 11 より「日本語ができれば給料がいいから（4.11）」、「将来、タイで日系企業以外で日本人と関わる仕事がしたいから（3.99）」、「将来、日本で就職したいから（3.86）」、「将来、タイにある日系企業で働きたいから（3.77）」と日系企業に就職したり、日本人と仕事をするをどの学部 of 学生も「high」と高く願望しているので、ビジネス重視の日本語選択科目は設置すべきと考える。また、ビジネス重視の授業内容としつつも、その具体的内容については実際にタイに進出している日系企業担当者などから、これから求める人材像等を調査する必要がある。

2020 年に経済産業省が出した「ものづくり白書 2020 版」にあるように、近年日本の製造業は不確実性のリスクの高まりに対応せざるを得ない状況である。そういったなか、タイにおける日系企業の日本人の役割やタイ人に求める能力が変わる可能性がある。とりわけ、昨今のコロナ禍による在留日本人や日系企業の数がどのように変化したかは現時点では肌感覚でしかわからないものの、在留邦人が減少したなかで、現地タイ法人の運営をタイ人に任せる方向になるのではないかと推測される。

このような時代背景のなか、日系企業が求めるタイ人の採用にあたり、求める日本語能力は日本語能力試験ならば、最低でも N3 という声が多い。このような声は実際のところ、本当であるのかどうか、今後調査する必要がある。また、もし新卒の学生が日系企業で働く場合、最低でも N3 が必要であるならば、どのように N3 レベルの人材を育成すべきであるかといったことなど今後の課題としていきたい。

参考文献

TNI

参考文献

- 宇津木隆寿（2011）「学習意欲を高める要因と学習行動との関係—日本語教師の日本語指導時の内発的動機づけ要因—」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第8号,75-84
- 大西由美（2010）「ウクライナにおける大学生の日本語学習動機」『日本語教育』第147号,82-96
- 岡葉子（2017）「日本語教育学における「学習動機」の概念について—motivation の訳語をめぐる問題—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第43号,19-32
- 王俊（2006）「学習動機と学習行動の変化—中国の大学の日本語学習者を中心に—」『東北大学大学院博士論文』
- 小林明子（2008）「日本語学習者のコミュニケーション意欲と学習動機の関連」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部（文化教育開発関連領域）』第57号,245-253
- 富吉結花（2014）「日本語学習者の学習意欲に影響を与える要因とその作用—タイ中部 P 大学の日本語主専攻者を取り巻く文脈と L2 Self から—」『2014 年度日本語教育学会春季大会予稿集』297-302
- ドルニエイ ゴルタン（2005）米山朝二・関昭典（訳）『動機づけを高める英語指導ストラテジー35』大修館書店
- 成田高広（1998）「日本語学習動機と成績との関係—タイの大学生の場合—」『世界の日本語教育』8, 1998年6月
- 三井久美子・藤原智栄美・上田俊介（2020）「英語プログラムで学ぶ留学生の日本語学習動機：GS（Global Studies）専攻学生に対する質問紙調査を基に」『立命館国際研究』第32巻第3号, 41-60
- 守谷智美（2002）第二言語教育における動機づけの研究動向-第二言語としての日本語の動機づけ研究を焦点として-『言語文化と日本語教育』2002年5月特集号、315-329
- 山本晃彦（2015）「日本語学習者の学習意欲の変化とその要因—インドネシアにおける渡日前日本語研修の事例より—」『拓殖大学大学院博士論文』

吉川景子（2011）「日本語学習行動への積極性の有無と学習意欲を高める要因に関する研究—タイの高校生の場合」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第10号，75-84

吉川景子（2013）「タイ中等教育における日本語学習動機,学習意欲を高める要因—日本語学習行動増加群と減少群の比較—」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第10号，117-126

Chitrada Deeprompong. (2013). **Factors Affecting Career Choices of Graduating Seniors: A Comparative Study Between Korean and Thai Students in College of Humanities and Engineering**. M.A.Thesis (Korean Studies). Graduate School: Chulalongkorn University.

Harkness, J., Pennell, B.-E., & Schoua-Glusberg, A. (2004). **Methods for Testing and Evaluating Survey Questionnaires**. USA: John Wiley & Sons, Inc.

Nunnally, J., & Bernstein, I. (1994). **Psychometric Theory**. New York: McGraw-Hill.

Robert V. Krejcie, & Daryle W. Morgan. (1970). Determining Sample Size for Research Activities. **Educational and Psychological Measurement**. 30: 607-610.

資料

TNI

質問紙

「แบบสอบถามความคิดเห็นแรงจูงในการเรียนภาษาญี่ปุ่นของนักศึกษาที่เรียนวิชาเลือกภาษาญี่ปุ่นตามความคิดเห็นของนักศึกษาสถาบันเทคโนโลยีไทย - ญี่ปุ่น / 日本語選択科目を履修している学生を対象にした日本語学習についてのアンケート」

I สาขาวิชา / 学部

II ด้านความคิดเห็นเกี่ยวกับการเรียนภาษาญี่ปุ่นของนักศึกษาที่เรียนวิชาเลือกภาษาญี่ปุ่นตามความคิดเห็นของนักศึกษาสถาบันเทคโนโลยีไทย- ญี่ปุ่น / 日本語学習について教えてください。

โปรดตอบโดยเลือกจากเกณฑ์ 5 ระดับ / 質問に対し 5 段階でお答えください。

5. หมายถึง เห็นด้วยมากที่สุด / とてもそう思う

4. หมายถึง เห็นด้วยมาก / そう思う

3. หมายถึง เห็นด้วยปานกลาง / どちらでもない

2. หมายถึง เห็นด้วยน้อย / そう思わない

1. หมายถึง เห็นด้วยน้อยที่สุด / 全く思わない

การเรียนภาษาญี่ปุ่น / 日本語学習について		5	4	3	2	1
1	รู้สึกว่าการเรียนภาษาญี่ปุ่นวิชาเลือกนี้สนุก / 今の科目は楽しい					
2	รู้สึกว่าการเรียนภาษาญี่ปุ่นวิชาเลือกนี้ง่าย / 今の科目は易しい					
3	รู้สึกว่าการเรียนภาษาญี่ปุ่นวิชาเลือกนี้เป็นวิชาที่มีประโยชน์ / 今の科目は為になる					
4	รู้สึกว่ายากเรียนภาษาญี่ปุ่นต่อไปหลังจากเรียนจบจากสถาบัน / これからも日本語の勉強を続けたい					
เหตุผลที่เรียนภาษาญี่ปุ่น / 日本語学習理由		5	4	3	2	1
5	เพราะถ้าได้ภาษาญี่ปุ่นจะได้เงินเดือนดี / 日本語ができれば給料がいいから					
6	เพราะอยากทำงานที่บริษัทญี่ปุ่นในประเทศไทย / 将来、タイにある日系企業で働きたいから					
7	เพราะอนาคตอยากทำงานที่เกี่ยวข้องกับคนญี่ปุ่น / 将来、タイで日系企業以外で日本人とかかわる仕事がしたいから					

8	เพราะอยากทำงานที่ประเทศญี่ปุ่น / 将来、日本で就職したいから					
9	เพราะอยากไปเรียนต่อที่ประเทศญี่ปุ่น / 将来、日本で進学したいから					
10	เพราะชอบอะนิเมการ์ตูนภาพยนตร์หรือนวนิยายญี่ปุ่น / 日本のマンガやアニメが好きだから					
11	เพราะชอบเพลงญี่ปุ่น / 日本の歌が好きだから					
12	เพราะอยากไปเที่ยวญี่ปุ่น / 日本を旅行したいから					
13	เพราะอยากรู้วัฒนธรรมญี่ปุ่น / 日本の文化を知りたいから					
14	เพราะมีเพื่อนคนญี่ปุ่น อยู่แล้ว / 日本人の友達がいるから					
15	เพราะอยากมีเพื่อนคนญี่ปุ่น / 日本人の友達が欲しいから					
วิธีการเรียนภาษาญี่ปุ่นนอกชั้นเรียน / 日本語学習行動		5	4	3	2	1
16	ถามอาจารย์เกี่ยวกับภาษาญี่ปุ่นหรือวัฒนธรรมญี่ปุ่นนอกเวลาเรียน / 授業時間以外でも先生に日本語や日本文化について質問をする					
17	เข้าร่วมกิจกรรมต่างๆที่ใช้ภาษาญี่ปุ่นนอกชั้นเรียนเช่นเข้าสอบ JLPT, J-Challenge, Speech Contest เป็นต้น / 自分の日本語能力を試す機会（スピーチコンテストや JLPT など）があれば、積極的に参加している					
18	ร้องเพลงภาษาญี่ปุ่นและค้นหาความหมายของเนื้อเพลง / 日本語の歌を聞いたり歌ったり、歌詞の意味を調べたりしている					
19	ดูอะนิเมภาพยนตร์ละครหรือซีรีส์ภาษาญี่ปุ่น / 日本語でアニメや映画、ドラマ、番組等を見ている					
20	อ่านนวนิยายหรือการ์ตูนภาษาญี่ปุ่น / 日本語でマンガや小説等を読んでいる					
21	เล่นเกมสโดยใช้ภาษาญี่ปุ่น / 日本語でゲームをしている					
22	ใช้ภาษาญี่ปุ่นผ่าน Social Network ต่างๆ / SNS で日本語を使っている					
23	เตรียมสอบวัดระดับภาษาญี่ปุ่นด้วยตัวเองเช่น JLPT / 自分で JLPT などの検定対策の勉強をしている					
24	เรียนพิเศษภาษาญี่ปุ่นที่โรงเรียนสอนภาษาญี่ปุ่น / 日本語学校などで勉強している					

III ด้านความคิดเห็นเกี่ยวกับแรงจูงใจในการเรียนภาษาญี่ปุ่นของนักศึกษาที่เรียนวิชาเลือกภาษาญี่ปุ่นตามความคิดเห็นของนักศึกษาสถาบันเทคโนโลยีไทย-ญี่ปุ่น / 学習意欲を上下させる要因について教えてください

โปรดตอบโดยเลือกจากเกณฑ์ 5 ระดับ / 質問に対し 5 段階でお答えください。

5. หมายถึงทำให้มีแรงจูงใจในการเรียนภาษาญี่ปุ่น เพิ่มขึ้นมาก / やる気がとても上がった
4. หมายถึงทำให้มีแรงจูงใจในการเรียนภาษาญี่ปุ่น เพิ่มขึ้น / やる気が上がった
3. หมายถึง ไม่ทำให้แรงจูงใจในการเรียนภาษาญี่ปุ่น เปลี่ยนแปลง / 変化なし
2. หมายถึงทำให้มีแรงจูงใจในการเรียนภาษาญี่ปุ่น ลดลง / やる気が下がった
1. หมายถึงทำให้มีแรงจูงใจในการเรียนภาษาญี่ปุ่น ลดลงมาก / やる気がとても下がった

ปัจจัยที่ทำให้มีแรงจูงใจในการเรียนภาษาญี่ปุ่น / 日本語学習意欲を上下させる要因	5	4	3	2	1
25 ตอนที่เนื้อหาในคาบเรียนวิชาภาษาญี่ปุ่นน่าสนใจ / 日本語の授業内容がおもしろいとき					
26 ตอนที่เนื้อหาในคาบเรียนวิชาภาษาญี่ปุ่นยาก / 日本語の授業の内容がむずかしいとき					
27 ตอนที่วิธีสอนภาษาญี่ปุ่นของอาจารย์เข้าใจง่าย / 日本語の授業で先生の教え方がわかりやすいとき					
28 ตอนที่ทำ Project วิชาภาษาญี่ปุ่น / プロジェクトしているとき					
29 ตอนที่สื่อสารกับอาจารย์ญี่ปุ่นได้เป็นอย่างดีโดยใช้ภาษาญี่ปุ่น / 日本人の先生と話してつたえたいことがうまく伝わったとき					
30 ตอนที่ไม่สามารถสื่อสารกับอาจารย์ญี่ปุ่นโดยใช้ภาษาญี่ปุ่นได้ / 日本人の先生と話してつたえたいことがうまく伝わらなかったとき					
31 ตอนที่ทำการบ้านหรืองานต่างๆที่ได้รับมอบหมายจากอาจารย์ / 先生に出された課題をしているとき					
32 ตอนที่ได้คะแนนสอบกลางภาคดีกว่าที่คิดไว้ / 中間試験がうまくできたとき					
33 ตอนที่ได้คะแนนสอบกลางภาคน้อยกว่าที่คิดไว้ / 中間試験がうまくできなかったとき					
34 ตอนที่เรียนไวยากรณ์ตัวใหม่ / 新しい文法などを勉強しているとき					
35 ตอนที่โดนอาจารย์ที่สอนวิชาภาษาญี่ปุ่นดุ / 先生に怒られたとき					

36	ตอนที่อาจารย์ที่สอนวิชาภาษาญี่ปุ่นชม / 先生にほめられたとき					
37	ตอนที่เรียนกับอาจารย์ที่ใจดี / 先生が親切なとき					
38	ตอนที่ได้รับความคิดเห็น Feedback ต่างๆจากอาจารย์ / 先生からフィードバックをもらったとき					

